

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成27年度技術情報第18号(エンドウ類のアザミウマ類)について (送付)

エンドウ類のアザミウマ類について情報を取りまとめましたので送付します。

本年は11月下旬以降の気温が平年より高く推移し、アザミウマ類の発生が増加しています。今後の気温も高めに推移することが予想されており、発生にはより一層の注意が必要です。

- 1 農作物名 エンドウ類
- 2 病害虫名 アザミウマ類
- 3 発生状況

- (1) 発生地域 県本土
- (2) 発生量 多

4 情報の根拠

- (1) アザミウマ類の12月の発生ほ場率は92%と平年(40%)より高く(図1)、過去10年でも平成22年(93%)に次いで高かった(図2)。
- (2) 白ぶくれ被害莢(図4, 産卵痕)の発生程度の高いほ場が認められ(表1)、被害莢率も上昇している(図3)。
- (3) むこう1カ月の気象予報でも気温が平年より高く推移することが予想されており、発生には好適な条件となっている。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 花卉の奥に生息するため(図5)、丁寧な薬剤散布に努める。
- (2) 青色粘着トラップ等を活用し発生状況を把握し、早期防除に努める。

6 調査結果

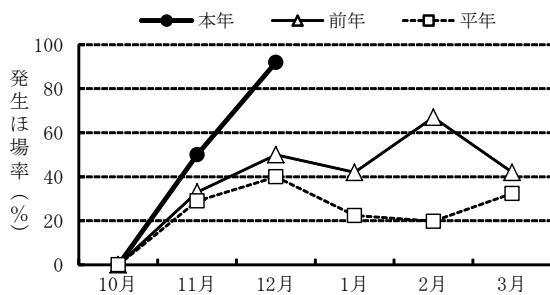


表1 12月の発生程度別ほ場数(アザミウマ類)

調査地点	ほ場数	発生程度 a)			
		甚	多	中	少
指宿市山川	6	4	1	1	
阿久根市	6		1	1	3

a) 発生程度：甚は被害莢率で31%以上、多は16~30%、中は6~15%、少は1~5%

図1 アザミウマ類の発生ほ場率の推移

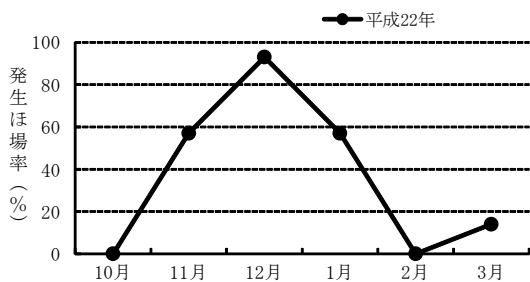


図2 アザミウマ類の発生ほ場率の推移(平成22年)

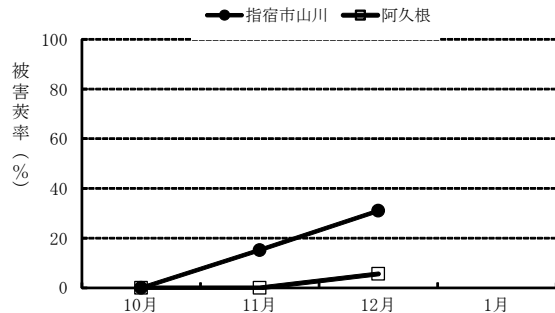


図3 アザミウマ類による白ぶくれ被害莢率の推移

【参考】



図4 白ぶくれ被害莢（産卵痕）



図5 花内に生息するアザミウマ類成虫